

二十歳の頃 不良少年のあゆみ

自由民主党参議院議員 義家弘介先生

C 班 小森英明 二杉祐香 山本和磨

＜なぜ義家先生なのか＞

私達の班は、このゼミで求められている「常に成長意欲を持ち、変わっていくこと＝“チェンジ”」を大きく成し遂げられている人にお話を伺いたいと考え、またメンバーの一人が教職課程を履修し教師を目指していることから、元高校教師であり現在は自由民主党参議院議員である、義家弘介先生にインタビューを依頼させていただきました。

＜義家先生の紹介＞

少年時代はかなり反抗的で荒れていたため不良と呼ばれていた。明治学院大学卒。進学塾の講師を経験した後、母校である北星学園余市高校の教師になる。ドキュメント番組で熱血教師として注目されヤンキー先生として話題になり、著書はドラマ化や映画化もされた。高校を退職し横浜市の教育委員に就任、二年後に辞任し参議院議員選挙に出馬、当選。

＜インタビュー概要＞

義家先生は二十歳の頃、人生は帳尻が合うと感じたそうです。小中学生時代みんなが真面目に勉強している中、義家先生は反抗的で不真面目でした。大学に入り二十歳の頃になってみると周りのみんなははじめて遊ぶようになりましたが、義家先生は、今まで何もしてこなかった分ここで頑張らないと自分の人生この先ないと思い、弁護士になるという当時の目標に向かって必死に勉強しました。こういった意味で人生は帳尻が合うと感じたそうです。

二十歳の頃も今も考え方は基本的には変わっておらず、大人の権力や権威に対しては不良時代を含め二十歳の頃から抵抗感があるそうです。しかし今では自分にできること

や立場は変わったので、人生を教育にかけるという決意のもとで次の世代に希望を託すべく生きているとおっしゃっていました。

＜私たちへのアドバイス＞

・「勝手に生きろ！」二十歳の頃にどう生きればいいのかという答えはないし、転機はいつ訪れるか分からない。自分自身に責任を持って生きていってほしいという思いが伝わりました。

・「恋愛をしろ！」義家先生の考える学生にとって一番大切なことは、勉強はもちろんだが、恋愛！とおっしゃっていました。学生時代に誰かを愛し、愛されること。家族以外の経験を必死にすること。恋愛から学ぶことは多いとアドバイスをしていただきました。

・「挑んで勝ったときに自信になり、負けたとき教訓になる！」勉強や恋愛だけに限らず、自分の苦手なこと、新しいものに挑戦することは、誰しも自信がないかもしれませんが。しかし、自信なんてもともとないのです！恐れずに挑戦することが大切だと感じました。

＜感想と反省＞

私たちにとってこの二十歳の頃という課題はとてもいい経験になりました。自分達で取材させていただく方を考えてアポイントをとり、取材をして仲間とともに課題をすすめひとつの発表として完成させる。どれも私たちにとっては初めてのことでした。班員と協力するうえでは戸惑いや葛藤もあり、大変だと感じることもありましたが、それと同時に協力することの大切さを改めて実感することができました。

反省としては、人前に立った時の話し方や見やすいパワーポイントの作り方、分かりやすいレジュメの作成方法などがこれからの課題として多く残っています。また、発表でひとつの軸をつくり、一貫性を持たせることの大切さを知りました。これらの事を克服していくとともに、ゼミの仲間とお互いを高め合い成長していきたいです。

＜最後に＞

お忙しい中、私達のインタビューを快く承諾してくださった義家弘介先生に心より感謝し、改めてお礼申し上げます。またこのような素晴らしい企画を私たちに経験させてくださった先生、先輩方にも感謝をし、今後はこの二十歳の頃の経験を活かして何事にも責任を持ち積極的に挑戦しながらゼミ生活を送りたいと思います。